

## 保健福祉学研究科保健福祉学専攻博士後期課程

### 博士論文評価基準および最終試験基準

博士論文評価基準	
① 保健・医療・福祉分野において社会的意義が認められること。	
	「社会的意義」とは、研究によって得られた知見が保健・医療・福祉分野における学術上の創造性や新規性を有していることをいう。
② 研究方法、論旨展開、研究倫理において妥当性を有していること。	
	「研究方法」において妥当性を有しているかの判断に際しては、次の要素を考慮する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・先行研究等に裏付けされた学術的見地からみて実証的あるいは論理的な整合性がある。</li></ul>
	「論旨展開」において妥当性を有しているかの判断に際しては、次の要素をいずれも考慮する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・文章表現および体裁が整えられている。</li><li>・研究論文全般に対して論旨が明確で一貫性がある。</li><li>・得られた研究結果と考察に整合性がある。</li><li>・研究結果の表現が適切である。 (図表表記の正確さやわかりやすさ、本文と図表の整合性)。</li><li>・先行研究について十分な知見を有し、適切な引用がなされている。</li></ul>
	「研究倫理」において妥当性を有しているかの判断に際しては、次の要素を考慮する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・実証の手続きが明記されている。</li><li>・倫理的配慮を遵守している。</li></ul>
③ 保健福祉学の発展に貢献できる学術的価値と独創性を兼ね備えていること。	
	「保健福祉学の発展に貢献できる学術的価値」の判断においては、次の要素をいずれも考慮する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・研究の将来性、発展性が認められる。</li><li>・得られた成果の学術的到達度（当該専門分野の原著論文又は原著論文に相当する水準）が認められる。</li></ul>
最終試験基準	
本研究科の博士学位取得者にふさわしい見識と倫理観を持って、自立して研究活動を行うことができる能力を有していること。	